

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	長岡工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
	機械工学科	夜・通信		16	4	20	7	
	電気電子システム工学科	夜・通信			8	24	7	
	電子制御工学科	夜・通信			19	35	7	
	物質工学科	夜・通信			3	19	7	
	環境都市工学科	夜・通信			11	27	7	
	電子機械システム工学専攻	夜・通信		8	8	16	7	
	物質工学専攻	夜・通信			2	10	7	
	環境都市工学専攻	夜・通信			4	12	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

機械工学科 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=16&department_id=12&year=2024&lang=ja 電気電子システム工学科 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=16&department_id=13&year=2024&lang=ja

電子制御工学科
https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=16&department_id=14&year=2024&lang=ja
物質工学科
https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=16&department_id=15&year=2024&lang=ja
環境都市工学科
https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=16&department_id=16&year=2024&lang=ja
電子機械システム工学専攻
https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=16&department_id=21&year=2024&lang=ja
物質工学専攻
https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=16&department_id=22&year=2024&lang=ja
環境都市工学専攻
https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=16&department_id=23&year=2024&lang=ja

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	長岡工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/yakuin-20240401.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～2029年3月31日	理事長
常勤	九州大学大学院総合理工学府長・研究院長	2024年4月1日～2026年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月1日～2026年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	長岡工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本校の教育理念、各学科及び各専攻の教育方針の目的を達成するため、各学科及び各専攻が示すディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに則り、必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成している。次年度の授業担当教員を12月中旬までに決定し、授業科目の授業計画(シラバス)については、学習指導要領等の改訂を始め社会要請に十分配慮した内容の授業計画を作成し、校内に設置した委員会等での確認を経て、4月にホームページで公表している。 また、専攻科では、本校が規定する「専攻科授業科目の履修等に関する規程」で授業の方法を、講義、演習、実験及び実習のいずれかにより又はこれらを併用により行うものとしている。	
授業計画書の公表方法	https://www.nagaoka-ct.ac.jp/zaikousei/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 本校が規定する「履修及び学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規程」には、まず、履修の要件として、授業科目及び特別活動は、当該総授業時間数の三分の二の出席をもって履修したものとしている。学業成績の評価は、授業科目については、シラバスに明示した評価方法（試験の結果やレポートを含む。）により 100 点満点で評価し、特別活動については、学級担任が出席状況及び活動状況等を判断し、単位修得の可否をもって評価することとしている。 単位修得を認定する基準は、1 学年から 3 学年までの開設科目は、50 点以上、4 学年から 5 学年の開設科目は、60 点以上としている。さらに進級の要件を、在籍する学年までに、必修科目の指定する単位数を修得していること、特別活動の単位を修得していること及び選択科目の指定する単位数を修得していることを基準として、指定する必修科目以外の必修科目と指定する選択科目以外の選択科目の未修得単位数の合計が 4 単位以下であることで 1 学年上の学年への進級を認めている。 また、本校が規定する「専攻科授業科目の履修等に関する規程」には、学業成績の評価は、科目ごとのシラバスに明示した評価方法（試験成績）及び出席状況並びに平素の学修状況を総合して、100 点満点で評価を行うこととしており、単位の認定は、評点が、60 点以上で評価された授業科目について、当該授業科目を修得したものとして単位を認定している。	
3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 履修科目の成績評価の評点（100 点満点）から、履修した科目の平均を算出する。 （4 年生以上において平均点を算出する科目の範囲は、本校が規定する「履修及び学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規程」の別表第 1 で定めている各学年で規定している単位数合計の値までの科目とする。そこで、選択科目を含める必要がある場合、選択科目については、評点の高い科目から規定している単位数合計の値となるまでの科目を抽出し、平均点を算出する。）	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.nagaoka-ct.ac.jp/zaikousei/study-support/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校が規定する「履修及び学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規程」には、3学年の修了要件を3年以上在学し、かつ、3学年までに修得するものとして指定されている単位数のうち、未修得である単位数の合計が10単位以内である者は、3学年を修了したものとしている。卒業の認定方針は、各学科が示す必修科目の全ての単位を修得していること、特別活動の全ての単位（第1学年から第3学年までの学年ごとに30単位時間、合計90単位時間）を修得していること、各学科が指定している選択科目の単位数を充足していることを要件とし、認定に必要な単位数は、167単位以上（そのうち、一般科目については75単位以上、専門科目については82単位以上）である。また、専攻科の修了要件は、次表に掲げる修了に必要な単位数を修得しなければならない、かつ、専攻科に2年以上在学していなければならない。

専攻	科目	一般科目	専門科目		合計
			専門共通科目	専門科目	
電子機械システム工学専攻		8単位以上	14単位以上	34単位以上	62単位以上
物質工学専攻		8単位以上	14単位以上	34単位以上	62単位以上
環境都市工学専攻		8単位以上	14単位以上	34単位以上	62単位以上

卒業の認定に関する
方針の公表方法

・学生便覧の242、229～240頁

<https://www.nagaoka-ct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/%E4%BB%A4%E5%92%8C%EF%BC%96%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E9%95%B7%E5%B2%A1%E9%AB%98%E5%B0%82%E4%BE%BF%E8%A6%A7.pdf>

・ディプロマポリシー

<https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	長岡工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R4jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/kansaR4.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和6年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/r6-keikaku.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/5th-keikaku.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/public-info/medium-term-plan/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/public-info/medium-term-plan/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/) (概要) 機械工学科では、機械工学の主要分野である力学、材料、加工、熱・流体、設計、計測・制御のほか、情報、エレクトロニクスなどの基礎知識を修得し、それらを問題解決に応用できる能力を身につけた技術者を育成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/) (概要) 機械工学科では、所定の単位を修得し、地域産業界はもとより世界で活躍できる技術者として、以下の能力を身に付けた学生に対して、卒業を認定します。 - 感性ゆたかな技術者としての能力 1) 人類の福祉と地球環境に配慮できる教養 2) 科学、技術の基礎と倫理観 - 実践力のある技術者としての能力 1) 機械工学の専門知識 2) ものづくりのスキル - 人類の未来をきりひらく創造的技術者としての能力 1) 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力 2) 問題の発見と解決の能力 3) 未来志向で主体的に学び続ける人間力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/) (概要) 機械工学科は、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた知識・技能などを育成するために、低学年では一般科目を中心に工学基礎科目を織り交ぜ、学年が上がるにつれ専門科目を多く学ぶ「くさび型」の教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。 【教育課程編成の考え方】 - 感性ゆたかな技術者としての能力育成 人類の福祉と地球環境に配慮できる教養、科学、技術の基礎と倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を育成する授業を、学科 1～3 年の一般科目を中心に配置します。 - 実践力のある技術者としての能力育成 機械工学の専門的知識（力学、材料、加工、熱・流体、設計、計測・制御のほか、情報、エレクトロニクス等）、ものづくりスキルなど「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」を育成する授業を、学科 3～5 学年の専門科目を中心に配置します。 - 人類の未来をきりひらく創造的技術者としての能力育成 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力、課題の発見と解決の能力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力など「基盤的資質・能力」及び「創造性・デザイン能力」を育成する授業や、キャリア教育に関する授業を、学科 1～5 年の実験、実習、

インターンシップ、卒業研究を中心に配置します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/) (概要) 各学科共通 1. 求める学生像 長岡高専は、「人類の未来をきりひらく、感性ゆたかで実践力のある創造的技術者」の育成を目指しています。そのため、以下の資質や考えを持つ志願者を求めます。 (1) 「理科、数学」が好きで、社会の発展につながる科学技術を学びたいと考えている人 (2) 工作や「技術・家庭」が好きで、工学分野の専門知識を学び、ものづくりスキル、実践力を身に付けたいと考えている人 (3) 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力、問題発見・解決能力を身につけ、創造力を発揮したいと考えている人 (4) 未来に目標を定めて主体的に学ぶ意欲があり、地域や世界で活躍したいと考えている人 2. 入学者選抜の基本方針 「求める学生像」に沿った適性を有する人材を選抜するため、次のような方針で入学者選抜を行います。 第1学年入学者選抜 (1) 推薦選抜（推薦書、調査書及び面接結果の総合評価） (2) 学力選抜（調査書及び学力検査（筆記）結果の総合評価） (3) 帰国生徒特別選抜（調査書、学力検査（筆記）結果及び面接結果の総合評価） 第4学年編入学者選抜 (1) 学力選抜（調査書、英語能力、口頭試問結果及び面接結果の総合評価） (2) 帰国生徒特別選抜（調査書、英語能力、口頭試問結果及び面接結果の総合評価）
学部等名 電気電子システム工学科 教育研究上の目的 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/) (概要) 電気電子システム工学科では、電気電子システム工学の主要分野である AI/IoT・情報通信、パワーエネルギー、電子材料・デバイスなどの基礎知識を修得し、それらを問題解決に応用できる能力を身につけた技術者を育成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/) (概要) 電気電子システム工学科では、所定の単位を修得し、地域産業界はもとより世界で活躍できる技術者として、以下の能力を身につけた学生に対して、卒業を認定します。 1. 感性ゆたかな技術者としての能力 (1) 人類の福祉と地球環境に配慮できる教養 (2) 科学、技術の基礎と倫理観 2. 実践力のある技術者としての能力 (1) 電気電子工学の専門知識

(2) ものづくりのスキル 3. 人類の未来をきりひらく創造的技術者としての能力 (1) 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力 (2) 問題の発見と解決の能力 (3) 未来志向で主体的に学び続ける人間力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/)
(概要) 電気電子システム工学科は、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた知識・技能などを育成するために、低学年では一般科目を中心に工学基礎科目を織り交ぜ、学年が上がるにつれ専門科目を多く学ぶ「くさび型」の教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。 【教育課程編成の考え方】 1. 感性ゆたかな技術者としての能力育成 人類の福祉と地球環境に配慮できる教養、科学、技術の基礎と倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を育成する授業を、学科1～3年の一般科目を中心に配置します。 2. 実践力のある技術者としての能力育成 電気電子システム工学の専門的知識（情報通信、電子システム、パワーエネルギー、電子材料・デバイス等）、ものづくりスキルなど「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」を育成する授業を、学科3～5学年の専門科目を中心に配置します。 3. 人類の未来をきりひらく創造的技術者としての能力育成 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力、課題の発見と解決の能力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力など「基盤的資質・能力」及び「創造性・デザイン能力」を育成する授業や、キャリア教育に関する授業を、学科1～5年の実験、実習、インターンシップ、卒業研究を中心に配置します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/)
(概要) 各学科共通 1. 求める学生像 長岡高専は、「人類の未来をきりひらく、感性ゆたかで実践力のある創造的技術者」の育成を目指しています。そのため、以下の資質や考えを持つ志願者を求めます。 (1) 「理科、数学」が好きで、社会の発展につながる科学技術を学びたいと考えている人 (2) 工作や「技術・家庭」が好きで、工学分野の専門知識を学び、ものづくりスキル、実践力を身に付けたいと考えている人 (3) 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力、問題発見・解決能力を身につけ、創造力を発揮したいと考えている人 (4) 未来に目標を定めて主体的に学ぶ意欲があり、地域や世界で活躍したいと考えている人 2. 入学者選抜の基本方針 「求める学生像」に沿った適性を有する人材を選抜するため、次のような方針で入学者選抜を行います。 第1学年入学者選抜 (1) 推薦選抜（推薦書、調査書及び面接結果の総合評価） (2) 学力選抜（調査書及び学力検査（筆記）結果の総合評価） (3) 帰国生徒特別選抜（調査書、学力検査（筆記）結果及び面接結果の総合評価） 第4学年編入学選抜

(1) 学力選抜（調査書、英語能力、口頭試問結果及び面接結果の総合評価） (2) 帰国生徒特別選抜（調査書、英語能力、口頭試問結果及び面接結果の総合評価）

学部等名 電子制御工学科
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/）
（概要） 電子制御工学科では、電子制御工学の主要分野である電気・電子、情報、ICT、計測、制御、メカトロニクスなどの基礎知識を修得し、それらを問題解決に応用できる能力を身につけた技術者を育成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/）
（概要） 電子制御工学科では、所定の単位を修得し、地域産業界はもとより世界で活躍できる技術者として、以下の能力を身に付けた学生に対して、卒業を認定します。 - 感性ゆたかな技術者としての能力 - 人類の福祉と地球環境に配慮できる教養 - 科学、技術の基礎と倫理観 - 実践力のある技術者としての能力 - 電子制御工学の専門知識 - ものづくりのスキル - 人類の未来をきりひらく創造的技術者としての能力 - 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力 - 問題の発見と解決の能力 - 未来志向で主体的に学び続ける人間力
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/）
（概要） 電子制御工学科は、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた知識・技能などを育成するために、低学年では一般科目を中心に工学基礎科目を織り交ぜ、学年が上がるにつれ専門科目を多く学ぶ「くさび型」の教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「基盤的資質・能力」及び「創造性・デザイン能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業や、キャリア教育に関する授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。 【教育課程編成の考え方】 - 感性ゆたかな技術者としての能力育成 人類の福祉と地球環境に配慮できる教養、科学、技術の基礎と倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を育成する授業を、学科1～3年の一般科目を中心に配置します。 - 実践力のある技術者としての能力育成 電子制御工学の専門的知識（電気・電子、情報、ICT、計測、制御、メカトロニクス等）、ものづくりスキルなど「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」を育成する授業を、学科3～5学年の専門科目を中心に配置します。 - 人類の未来をきりひらく創造的技術者としての能力育成

多様な人々と協働できるコミュニケーション能力、課題の発見と解決の能力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力など「基盤的資質・能力」及び「創造性・デザイン能力」を育成する授業や、キャリア教育に関する授業を、学科1～5年の実験、実習、インターンシップ、卒業研究を中心に配置します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/)
(概要) 各学科共通 1. 求める学生像 長岡高専は、「人類の未来をきりひらく、感性ゆたかで実践力のある創造的技術者」の育成を目指しています。そのため、以下の資質や考えを持つ志願者を求めます。 (1) 「理科、数学」が好きで、社会の発展につながる科学技術を学びたいと考えている人 (2) 工作や「技術・家庭」が好きで、工学分野の専門知識を学び、ものづくりスキル、実践力を身に付けたいと考えている人 (3) 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力、問題発見・解決能力を身につけ、創造力を発揮したいと考えている人 (4) 未来に目標を定めて主体的に学ぶ意欲があり、地域や世界で活躍したいと考えている人 2. 入学者選抜の基本方針 「求める学生像」に沿った適性を有する人材を選抜するため、次のような方針で入学者選抜を行います。 第1学年入学者選抜 (1) 推薦選抜（推薦書、調査書及び面接結果の総合評価） (2) 学力選抜（調査書及び学力検査（筆記）結果の総合評価） (3) 帰国生徒特別選抜（調査書、学力検査（筆記）結果及び面接結果の総合評価） 第4学年編入学者選抜 (1) 学力選抜（調査書、英語能力、口頭試問結果及び面接結果の総合評価） (2) 帰国生徒特別選抜（調査書、英語能力、口頭試問結果及び面接結果の総合評価）
学部等名 物質工学科
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/)
(概要) 物質工学科では、物質工学の主要分野である分析化学、無機化学、有機化学、材料科学、化学工学、物理化学、生物化学などの基礎知識を修得し、それらを問題解決に応用できる能力を身につけた技術者を育成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/)
(概要) 物質工学科では、所定の単位を修得し、地域産業界はもとより世界で活躍できる技術者として、以下の能力を身につけた学生に対して、卒業を認定します。 1. 感性ゆたかな技術者としての能力 (1) 人類の福祉と地球環境に配慮できる教養 (2) 科学、技術の基礎と倫理観 2. 実践力のある技術者としての能力 (1) 物質工学の専門知識

(2) ものづくりのスキル 3. 人類の未来をきりひらく創造的技術者としての能力 (1) 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力 (2) 問題の発見と解決の能力 (3) 未来志向で主体的に学び続ける人間力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/) (概要) 物質工学科は、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた知識・技能などを育成するために、低学年では一般科目を中心に工学基礎科目を織り交ぜ、学年が上がるにつれ専門科目を多く学ぶ「くさび型」の教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。 【教育課程編成の考え方】 1. 感性ゆたかな技術者としての能力育成 人類の福祉と地球環境に配慮できる教養、科学、技術の基礎と倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を育成する授業を、学科1～3年の一般科目を中心に配置します。 2. 実践力のある技術者としての能力育成 物質工学の専門的知識（分析化学、無機化学、有機化学、材料化学、化学工学、物理化学、生物化学等）、ものづくりスキルなど「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」を育成する授業を、学科3～5学年の専門科目を中心に配置します。配置します。 3. 人類の未来をきりひらく創造的技術者としての能力育成 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力、課題の発見と解決の能力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力など「基盤的資質・能力」及び「創造性・デザイン能力」を育成する授業や、キャリア教育に関する授業を、学科1～5年の実験、実習、インターンシップ、卒業研究を中心に配置します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/) (概要) 各学科共通 1. 求める学生像 長岡高専は、「人類の未来をきりひらく、感性ゆたかで実践力のある創造的技術者」の育成を目指しています。そのため、以下の資質や考えを持つ志願者を求めます。 (1) 「理科、数学」が好きで、社会の発展につながる科学技術を学びたいと考えている人 (2) 工作や「技術・家庭」が好きで、工学分野の専門知識を学び、ものづくりスキル、実践力を身に付けたいと考えている人 (3) 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力、問題発見・解決能力を身につけ、創造力を発揮したいと考えている人 (4) 未来に目標を定めて主体的に学ぶ意欲があり、地域や世界で活躍したいと考えている人 2. 入学者選抜の基本方針 「求める学生像」に沿った適性を有する人材を選抜するため、次のような方針で入学者選抜を行います。 第1学年入学者選抜 (1) 推薦選抜（推薦書、調査書及び面接結果の総合評価） (2) 学力選抜（調査書及び学力検査（筆記）結果の総合評価） (3) 帰国生徒特別選抜（調査書、学力検査（筆記）結果及び面接結果の総合評価） 第4学年編入学選抜

- (1) 学力選抜（調査書、英語能力、口頭試問結果及び面接結果の総合評価）
- (2) 帰国生徒特別選抜（調査書、英語能力、口頭試問結果及び面接結果の総合評価）

学部等名 環境都市工学科

教育研究上の目的

（公表方法：<https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/>）

（概要）

環境都市工学科では、環境都市工学の主要分野である構造、地盤、水理、建設材料、環境、都市計画、防災などの基礎知識を修得し、それらを問題解決に応用できる能力を身につけた技術者を育成します。

卒業又は修了の認定に関する方針

（公表方法：<https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/>）

（概要）

環境都市工学科では、所定の単位を修得し、地域産業界はもとより世界で活躍できる技術者として、以下の能力を身に付けた学生に対して、卒業を認定します。

1. 感性ゆたかな技術者としての能力
 - (1) 人類の福祉と地球環境に配慮できる教養
 - (2) 科学、技術の基礎と倫理観
2. 実践力のある技術者としての能力
 - (1) 環境都市工学の専門知識
 - (2) ものづくりのスキル
3. 人類の未来をきりひらく創造的技術者としての能力
 - (1) 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力
 - (2) 問題の発見と解決の能力
 - (3) 未来志向で主体的に学び続ける人間力

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/>）

（概要）

環境都市工学科は、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた知識・技能などを育成するために、低学年では一般科目を中心に工学基礎科目を織り交ぜ、学年が上がるにつれ専門科目を多く学ぶ「くさび型」の教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。

【教育課程編成の考え方】

1. 感性ゆたかな技術者としての能力育成

人類の福祉と地球環境に配慮できる教養、科学、技術の基礎と倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を育成する授業を、学科1～3年の一般科目を中心に配置します。
2. 実践力のある技術者としての能力育成

環境都市工学の専門的知識（構造、地盤、水理、建設材料、環境、都市計画、防災等）、ものづくりスキルなど「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」を育成する授業を、学科3～5学年の専門科目を中心に配置します。
3. 人類の未来をきりひらく創造的技術者としての能力育成

多様な人々と協働できるコミュニケーション能力、課題の発見と解決の能力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力など「基盤的資質・能力」及び「創造性・デザイン能力」を育成する授業や、キャリア教育に関する授業を、学科1～5年の実験、実習、インターンシップ、卒業研究を中心に配置します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/)
(概要) 各学科共通 1. 求める学生像 長岡高専は、「人類の未来をきりひらく、感性ゆたかで実践力のある創造的技術者」の育成を目指しています。そのため、以下の資質や考えを持つ志願者を求めます。 (1) 「理科、数学」が好きで、社会の発展につながる科学技術を学びたいと考えている人 (2) 工作や「技術・家庭」が好きで、工学分野の専門知識を学び、ものづくりスキル、実践力を身に付けたいと考えている人 (3) 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力、問題発見・解決能力を身につけ、創造力を発揮したいと考えている人 (4) 未来に目標を定めて主体的に学ぶ意欲があり、地域や世界で活躍したいと考えている人 2. 入学者選抜の基本方針 「求める学生像」に沿った適性を有する人材を選抜するため、次のような方針で入学者選抜を行います。 第1学年入学者選抜 (1) 推薦選抜（推薦書、調査書及び面接結果の総合評価） (2) 学力選抜（調査書及び学力検査（筆記）結果の総合評価） (3) 帰国生徒特別選抜（調査書、学力検査（筆記）結果及び面接結果の総合評価） 第4学年編入学者選抜 (1) 学力選抜（調査書、英語能力、口頭試問結果及び面接結果の総合評価） (2) 帰国生徒特別選抜（調査書、英語能力、口頭試問結果及び面接結果の総合評価）

学部等名 電子機械システム工学専攻
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/)
(概要) 電子機械システム工学専攻では、電子機械システム工学の主要分野である機械系、電気系、電子制御系などの基礎知識をもとに、電気・電子機器・電子材料、デバイス、機械材料、機械設計、加工計測制御及びロボット等の理論と応用について深く学びます。そして、より高度な専門科目や、分野を融合した境界領域科目の学習・実験をとおして、電子機械システム工学分野における問題の発見と解決及び研究・開発に対応できる能力を身につけた技術者を育成することを目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/)
(概要) 電子機械システム工学専攻では、所定の単位を修得し、地域産業界はもとより世界で活躍できる技術者として、以下の能力を高めた学生に対して、修了を認定します。 1. 感性ゆたかな技術者としての能力 (1) 人類の福祉と地球環境に配慮できる教養 (2) 科学、技術の基礎と倫理観 2. 実践力のある技術者としての能力

(1) 電子機械システム工学の専門知識 (2) ものづくりのスキル 3. 人類の未来をきりひらく創造的技術者としての能力 (1) 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力 (2) 問題の発見と解決の能力 (3) 未来志向で主体的に学び続ける人間力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/)
(概要) 電子機械システム工学専攻は、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた知識・技能などを高め、学士（工学）の学位が取得可能な教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。 【教育課程編成の考え方】 1. 感性ゆたかな技術者としての能力育成 人類の福祉と地球環境に配慮できる教養、科学、技術の基礎と倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を高める授業を配置します。 2. 実践力のある技術者としての能力育成 電子機械システム工学の専門的知識（より高度な力学、機械材料・設計、加工、計測・制御のほか、エレクトロニクス、メカトロニクス、情報・ICT等）、ものづくりスキルなど「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」を高める授業を配置します。 3. 人類の未来をきりひらく創造的技術者としての能力育成 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力、課題の発見と解決の能力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力など「基盤的資質・能力」及び「創造性・デザイン能力」を育成する授業を、特別実験、学外実習、特別研究を中心に配置します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/)
(概要) 各専攻共通のアドミッションポリシー 1. 求める学生像 長岡高専は、「人類の未来をきりひらく、感性ゆたかで実践力のある創造的技術者」の育成を目指しています。そのため、以下の能力や考えを持つ志願者を求めます。 (1) 教養や倫理観、科学や技術の基礎を身に付けており、それら高め、社会の発展につながるより高度な科学技術を学びたいと考えている人 (2) 工学の専門知識、ものづくりのスキルの基礎を身に付けており、それら高め、より高度な実践力を身に付けたいと考えている人 (3) 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力、問題発見・解決能力の基礎を身につけており、それら高めることで、より高度な創造力を発揮したいと考えている人 (4) 未来に目標を定めて主体的に学び続ける意欲があり、地域や世界で活躍したいと考えている人 2. 入学者選抜の基本方針 「求める学生像」に沿った適性を有する人材を選抜するため、次のような方針で入学者選抜を行います。 (1) 推薦選抜（推薦書、調査書及び面接結果の総合評価） (2) 学力選抜（調査書及び学力検査結果の総合評価） (3) 社会人特別選抜（推薦書、調査書及び面接結果の総合評価）
学部等名 物質工学専攻

教育研究上の目的 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/)
(概要) 物質工学専攻では、物質工学の主要分野である分析化学、無機化学、有機化学、材料科学、化学工学、物理化学、生物化学などの基礎知識をもとに、新しい材料の開発と生産に関する材料工学及び生物機能を物質生産に応用する分野の生物工学について深く学びます。そして、より高度な専門科目や、分野を融合した境界領域科目の学習・実験をとおして、物質工学分野における問題の発見と解決及び研究・開発に対応できる能力を身につけた技術者を育成することを目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/)
(概要) 物質工学専攻では、所定の単位を修得し、地域産業界はもとより世界で活躍できる技術者として、以下の能力を高めた学生に対して、修了を認定します。 1. 感性ゆたかな技術者としての能力 (1) 人類の福祉と地球環境に配慮できる教養 (2) 科学、技術の基礎と倫理観 2. 実践力のある技術者としての能力 (1) 物質工学の専門知識 (2) ものづくりのスキル 3. 人類の未来をきりひらく創造的技術者としての能力 (1) 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力 (2) 問題の発見と解決の能力 (3) 未来志向で主体的に学び続ける人間力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/)
(概要) 物質工学専攻は、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた知識・技能などを高め、学士（工学）の学位が取得可能な教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。 【教育課程編成の考え方】 1. 感性ゆたかな技術者としての能力育成 人類の福祉と地球環境に配慮できる教養、科学、技術の基礎と倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を高める授業を配置します。 2. 実践力のある技術者としての能力育成 物質工学の専門的知識（より高度な分析化学、無機化学、有機化学、材料化学、化学工学、物理化学、生物化学等）、ものづくりスキルなど「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」を高める授業を配置します。 3. 人類の未来をきりひらく創造的技術者としての能力育成 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力、課題の発見と解決の能力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力など「基盤的資質・能力」及び「創造性・デザイン能力」を育成する授業を、特別実験、学外実習、特別研究を中心に配置します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/)

(概要) 各専攻共通のアドミッションポリシー 1. 求める学生像 長岡高専は、「人類の未来をきりひらく、感性ゆたかで実践力のある創造的技術者」の育成を目指しています。そのため、以下の能力や考えを持つ志願者を求めます。 (1) 教養や倫理観、科学や技術の基礎を身に付けており、それらを高め、社会の発展につながるより高度な科学技術を学びたいと考えている人 (2) 工学の専門知識、ものづくりのスキルの基礎を身に付けており、それらを高め、より高度な実践力を身に付けたいと考えている人 (3) 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力、問題発見・解決能力の基礎を身につけており、それらを高めることで、より高度な創造力を発揮したいと考えている人 (4) 未来に目標を定めて主体的に学び続ける意欲があり、地域や世界で活躍したいと考えている人 2. 入学者選抜の基本方針 「求める学生像」に沿った適性を有する人材を選抜するため、次のような方針で入学者選抜を行います。 (1) 推薦選抜（推薦書、調査書及び面接結果の総合評価） (2) 学力選抜（調査書及び学力検査結果の総合評価） (3) 社会人特別選抜（推薦書、調査書及び面接結果の総合評価）

学部等名 環境都市工学専攻
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/)
(概要) 環境都市工学専攻では、環境都市工学の主要分野である構造、材料、河川・海岸、地盤、土質、環境、都市計画などの基礎知識をもとに、社会基盤に関する構造物や施設の計画立案、設計、建設、維持管理に加え、自然環境を維持するための環境工学に関する分野について深く学びます。そして、より高度な専門科目や、分野を融合した境界領域科目の学習・実験をとおして、環境都市工学分野における問題の発見と解決及び研究・開発に対応できる能力を身につけた技術者を育成することを目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/)
(概要) 環境都市工学専攻では、所定の単位を修得し、地域産業界はもとより世界で活躍できる技術者として、以下の能力を高めた学生に対して、修了を認定します。 1. 感性ゆたかな技術者としての能力 (1) 人類の福祉と地球環境に配慮できる教養 (2) 科学、技術の基礎と倫理観 2. 実践力のある技術者としての能力 (1) 環境都市工学の専門知識 (2) ものづくりのスキル 3. 人類の未来をきりひらく創造的技術者としての能力 (1) 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力 (2) 問題の発見と解決の能力 (3) 未来志向で主体的に学び続ける人間力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/)

(概要) 環境都市工学専攻は、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた知識・技能などを高め、学士（工学）の学位が取得可能な教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。 【教育課程編成の考え方】 1. 感性ゆたかな技術者としての能力育成 人類の福祉と地球環境に配慮できる教養、科学、技術の基礎と倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を高める授業を配置します。 2. 実践力のある技術者としての能力育成 環境都市工学の専門的知識（より高度な構造、地盤、水理、建設材料、環境、都市計画、防災等）、ものづくりスキルなど「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」を高める授業を配置します。 3. 人類の未来をきりひらく創造的技術者としての能力育成 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力、課題の発見と解決の能力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力など「基盤的資質・能力」及び「創造性・デザイン能力」を育成する授業を、特別実験、学外実習、特別研究を中心に配置します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/policy/)
(概要) 各専攻共通のアドミッションポリシー 1. 求める学生像 長岡高専は、「人類の未来をきりひらく、感性ゆたかで実践力のある創造的技術者」の育成を目指しています。そのため、以下の能力や考えを持つ志願者を求めます。 (1) 教養や倫理観、科学や技術の基礎を身に付けており、それらを高め、社会の発展につながるより高度な科学技術を学びたいと考えている人 (2) 工学の専門知識、ものづくりのスキルの基礎を身に付けており、それらを高め、より高度な実践力を身に付けたいと考えている人 (3) 多様な人々と協働できるコミュニケーション能力、問題発見・解決能力の基礎を身につけており、それらを高めることで、より高度な創造力を発揮したいと考えている人 (4) 未来に目標を定めて主体的に学び続ける意欲があり、地域や世界で活躍したいと考えている人 2. 入学者選抜の基本方針 「求める学生像」に沿った適性を有する人材を選抜するため、次のような方針で入学者選抜を行います。 (1) 推薦選抜（推薦書、調査書及び面接結果の総合評価） (2) 学力選抜（調査書及び学力検査結果の総合評価） (3) 社会人特別選抜（推薦書、調査書及び面接結果の総合評価）

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3人	－					3人
一般教育科	－	11人	7人	1人	6人	0人	25人
機械工学科	－	2人	5人	0人	1人	0人	8人
電気電子システム工学科	－	4人	2人	0人	3人	0人	9人
電子制御工学科	－	3人	5人	0人	0人	0人	8人
物質工学科	－	6人	5人	0人	1人	0人	12人
環境都市工学科	－	3人	4人	0人	2人	0人	9人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		54人					54人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/faculty-overview/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40人	41人	102.5%	200人	214人	107.0%	若干名	1人
電気電子 システム工学科	40人	41人	102.5%	200人	209人	104.5%	若干名	2人
電子制御工学科	40人	41人	102.5%	200人	202人	101.0%	若干名	2人
物質工学科	40人	42人	105.0%	200人	204人	102.0%	若干名	2人
環境都市工学科	40人	41人	102.5%	200人	207人	103.5%	若干名	0人
合計	200人	206人	103.0%	1000人	1036人	103.6%	若干名	7人
電子機械システム 工学専攻	12人	17人	141.7%	24人	30人	125.0%	—	—
物質工学専攻	4人	5人	125.0%	8人	13人	162.5%	—	—
環境都市工学専攻	4人	7人	175.0%	8人	14人	175.0%	—	—
合計	20人	29人	145.0%	40人	57人	142.5%	—	—
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	37 人 (100%)	25 人 (67.6%)	12 人 (32.4%)	0 人 (0%)
電気電子システム 工学科	46 人 (100%)	21 人 (45.7%)	25 人 (54.3%)	0 人 (0%)
電子制御工学科	39 人 (100%)	33 人 (84.6%)	6 人 (15.4%)	0 人 (0%)
物質工学科	43 人 (100%)	28 人 (65.1%)	15 人 (34.9%)	0 人 (0%)
環境都市工学科	36 人 (100%)	22 人 (61.1%)	14 人 (38.9%)	0 人 (0%)
合計	201 人 (100%)	129 人 (64.2%)	72 人 (35.8%)	0 人 (0%)
電子機械システム 工学専攻	19 人 (100%)	7 人 (36.8%)	12 人 (63.2%)	0 人 (0%)
物質工学専攻	8 人 (100%)	4 人 (50.0%)	4 人 (50.0%)	0 人 (0%)
環境都市工学専攻	9 人 (100%)	3 人 (33.3%)	6 人 (66.7%)	0 人 (0%)
合計	36 人 (100%)	14 人 (38.9%)	22 人 (61.1%)	0 人 (0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
進学先				
【学 科】長岡技術科学大学、長岡高専専攻科、新潟大学、群馬大学、信州大学、東京農工大学、東京都立大学、千葉工業大学、豊橋技術科学大学 等				
【専攻科】長岡技術科学大学大学院、新潟大学大学院、東北大学大学院、東京工業大学大学院、筑波大学大学院 等				
就職先産業分類				
【学 科】建設業、製造業、情報通信業、運輸・輸送業、電気・ガス・熱供給・水道業、公務 等				
【専攻科】建設業、製造業、情報通信業 等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

本校の教育理念、各学科及び各専攻の教育方針の目的を達成するため、各学科及び各専攻が示すディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに則り、必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成している。次年度の授業担当教員を12月中旬までに決定し、授業科目の授業計画（シラバス）については、学習指導要領等の改訂を始め社会要請に十分配慮した内容の授業計画を作成し、校内に設置した委員会等での確認を経て、4月にホームページで公表している。

また、専攻科では、本校が規定する「専攻科授業科目の履修等に関する規程」で授業の方法を、講義、演習、実験及び実習のいずれかにより又はこれらを併用により行うものとしている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

本校が規定する「履修及び学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規程」には、3学年の修了要件を3年以上在学し、かつ、3学年までに修得するものとして指定されている単位数のうち、未修得である単位数の合計が10単位以内である者は、3学年を修了したものであるとしている。卒業の認定方針は、各学科が示す必修科目の全ての単位を修得していること、特別活動の全ての単位（第1学年から第3学年までの学年ごとに30単位時間、合計90単位時間）を修得していること、各学科が指定している選択科目の単位数を充足していることを要件とし、認定に必要な単位数は、167単位以上（そのうち、一般科目については75単位以上、専門科目については82単位以上）である。

また、専攻科の修了要件は、次表に掲げる修了に必要な単位数を修得しなければならない、かつ、専攻科に2年以上在学していなければならない。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位	有・無	単位
	電気電子システム 工学科	167 単位	有・無	単位
	電子制御工学科	167 単位	有・無	単位
	物質工学科	167 単位	有・無	単位
	環境都市工学科	167 単位	有・無	単位
	電子機械システム 工専攻	62 単位	有・無	単位
	物質工学専攻	62 単位	有・無	単位
	環境都市工学専攻	62 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/facility-info/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	機械 工学科	234,600 円	84,600 円	57,750 円 ~ 166,420 円	内訳) 日本スポーツ振興センター災害 共済給付掛け金 1,550 円 教科書教材費 23,000 円~78,000 円 合宿研修費 34,000 円 学生会費 10,000 円 後援会費 留学生 6,000 円 留学生以外 入会金（第1学年次） 20,000 円 会費 21,000 円 TOEIC 受験料 1,870 円 PROG テスト受験料 2,200 円~ 2,420 円 寮生の場合（年額） 寄宿料 個室 9,600 円 複数人室 8,400 円 寮友会費 4,200 円
	電気電子 システム 工学科				
	電子制御 工学科				
	物質 工学科				
	環境都市 工学科				
	電子機械 システム 工学専攻			27,250 円 ~ 83,850 円	（内訳） 日本スポーツ振興センター災害 共済給付掛け金 1,550 円 教科書教材費 20,000 円 学生会費 2,500 円 後援会費 留学生 6,000 円 留学生以外 入会金（第1学年次） 10,000 円 会費 21,000 円 PROG テスト受験料 2,200 円 寮生の場合（年額） 寄宿料 個室 9,600 円 寮友会費 4,200 円
	物質 工学専攻				
	環境都市 工学専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 本校では平成22年度から苦手科目の克服や学力強化を目途とし、本校の専攻科生が学科の学生に対して、専門科目・数学・化学・物理・レポート作成などを附属図書館で学修サポートを行う制度を設けている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ・在校生に対し、「卒業・修了者の進路状況」を本校ホームページ(https://www.nagaoka-ct.ac.jp/career-support/course/)に公表している。 ・令和6年4月時点で企業会員393社が加盟する本校の技術協力会の協力のもと、「企業ガイダンス」を、3年生以上を対象(一部学年は任意参加)に毎年開催している。 ・令和5年度まで構内組織の室に設置されたキャリア支援に係るワーキンググループを令和6年度から独立させ、「キャリア支援室」を開設した。合同企業説明会や就職セミナーなどの情報提供、就職に関する学生相談など、今後より一層、学生に対するキャリア支援を充実させていく。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生が勉強・人間関係・心身の不調などで悩むことが生じた場合は、学内の教職員相談員(教員・看護師)に相談できるほか、学外から専門のカウンセラーが定期的に来校し、学生保護者も含めてどんなことでも相談できる「学生相談室」を設置している。 また、必要の生じた際は、特別学習支援制度を設け、身体的あるいはメンタル面で教育支援の必要な学生を複数人からなる教職員チームが適宜連携して適切な支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.nagaoka-ct.ac.jp/college-info/public-info/education/
備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。